

習志野市教育委員会会議録
(平成29年第8回定例会)

- 1 期 日 平成29年8月23日(水)
市庁舎3階大会議室
開会時刻 午後1時30分
閉会時刻 午後2時30分
- 2 出席委員
- | | | | |
|--|-------|-----|-----|
| | 委 員 長 | 梓 澤 | キヨ子 |
| | 委 員 | 古 本 | 敬 明 |
| | 委 員 | 原 田 | 孝 子 |
| | 委 員 | 貞 廣 | 斎 子 |
| | 委 員 | 植 松 | 榮 人 |
- 3 出席職員
- | | | | |
|------------|-----|------|----|
| 学校教育部長 | 櫻 井 | 健 之 | 子 |
| 生涯学習部長 | 井 澤 | 修 美 | 隆 |
| 学校教育部参事 | 小 熊 | 佳 司 | 隆 |
| 学校教育部参事 | 竹 田 | 佳 司 | 隆 |
| 学校教育部副参事 | 小 澤 | 由 香 | 雄 |
| 生涯学習部次長 | 斉 藤 | 勝 雄 | 和 |
| 生涯学習部副参事 | 奥 井 | 良 和 | 人 |
| 教育総務課長 | 三 角 | 寿 人 | 志 |
| 学校教育課長 | 高 橋 | 孝 志 | 宏 |
| 指導課長 | 上 原 | 心 之 | 仁 |
| 青少年課長 | 佐久間 | 心 之 | 子 |
| 習志野高校事務長 | 長 沼 | 俊 子 | 明 |
| 総合教育センター所長 | 足 立 | 文 明 | 哲 |
| 生涯スポーツ課長 | 柴 野 | 文 明 | 哲 |
| 青少年センター所長 | 浦 野 | 文 雄 | 吾 |
| 菊田公民館長 | 関 | 文 雄 | 吾 |
| 大久保図書館長 | 岡 野 | 重 吾 | 弘 |
| 学校教育部主幹 | 村 山 | 貴 弘 | 子 |
| 学校教育部主幹 | 穴 倉 | 順 子 | 一郎 |
| 学校教育部主幹 | 田 中 | 憲 一郎 | 夫 |
| 学校教育部主幹 | 小野寺 | 良 夫 | 彦 |
| 学校教育部主幹 | 鵜 沢 | 慈 彦 | 哉 |
| 生涯学習部主幹 | 藤 原 | 友 哉 | 裕 |
| 生涯学習部主幹 | 中 村 | 裕 美 | |

4 議題

第1 前回会議録の承認

第2 報告事項

(1) 平成29年度教育費予算案(9月補正)について

第3 議決事項

議案第25号 平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

議案第26号 平成30年度習志野市立幼稚園園児募集要項について

第4 協議事項

協議第1号 第七中学校区における市立幼稚園のあり方について

協議第2号 次回教育委員会定例会の期日について

平成29年9月27日(水)午後3時30分

第5 その他

6 会議内容

梓澤委員長が

平成29年習志野市教育委員会第8回定例会の開会を宣言

梓澤委員長が

会議規則第15条の規定により、報告事項(1)を非公開とすることについて諮り、全員異議なく非公開と決定された。

梓澤委員長が

非公開部分の会議録について、報告事項(1)は、議案が市長から市議会へ提案された後に、公開することについて諮り、全員異議なく提案どおり決定された。

梓澤委員長が

本日の日程について、非公開の議題を公開の議題の後に審議することについて諮り、全員異議なく提案どおり決定された。

梓澤委員長が

議案第26号及び協議第1号は秋津幼稚園と香澄幼稚園に関連する事項があり、この件について協議した後に議案第26号を審議したいため、審議順を、協議第1号を議案第26号の前に変更することについて諮り、全員異議なく提案どおり決定された。

梓澤委員長が

平成29年第7回定例会の会議録について承認を求め、承認された。

議案第25号 平成29年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

三角教育総務課長

議案第25号は、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価についてである。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会では、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について点検・評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに公表することとなっている。本議案は法律の趣旨に則り、平成28年度における本市教育委員会の実施事業等を対象とした、点検及び評価結果報告書について提案するものである。これまでに協議をしていただきながら取り纏めたものであるが、本定例会では議案として審議いただくものである。なお、本報告書については教育委員会会議での議決後、習志野市議会第3回定例会での提出を予定している。

また、点検・評価の結果は、平成30年度の教育行政方針の策定、今後の予算編成に反映するとともに、事務事業の改善等に活かしていく。併せて、市民の方々への説明責任を果たしていくために、少しでもわかりやすく情報発信を行えるよう、改善を続けていきたいと考えている、と概要を説明

梓澤委員長が質疑なしと認め、採決の結果、議案第25号は全員賛成で原案どおり可決された。

協議第1号 第七中学校区における市立幼稚園のあり方について

(学校教育課)

小野寺学校教育部主幹

この協議題については、これまでも教育委員会会議の中で協議をいただいていた。特に、秋津幼稚園・香澄幼稚園の園児数の状況については、報告してきたとおりである。本日は、第七中学校区における市立幼稚園のあり方について、これまでの背景、あるいは第七中学校区の市立幼稚園の入園状況、整備方針、保護者・地域住民への周知、要望事項とその対応、今後のスケジュール、あるいは秋津幼稚園・香澄幼稚園の位置図などを資料として用意した。これまでの経過等を踏まえながら、説明をしていく。

第七中学校区における市立こども園設置の背景は、これまでも説明していることではあるが、本市の計画の中では、子育ての拠点となる市立のこども園は7中学校区に1つ整備することとしている。また、第七中学校区における市立こども園の整備は、「習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所再編計画 第3期計画」の中で、平成32年度以降に位置づけ、対応しようとしていたものである。しかしながら、第七中学校区では乳幼児人口が大幅に減少し、秋津・香澄幼稚園の入園者数も減少傾向にあり、本市が目指している集団教育における幼児教育の目的達成や、教師の育成などの観点から課題が生じているという事実もある。この状況について、今後も園児数の大幅な増加は見込むことができないことから、早急に教育環境の改善に取り組む必要があり、計画を前倒しして取り組むこととした。以上のことが、これまでの説明経過である。

香澄・秋津地域における推計人口について、前回の教育委員会会議で報告させていただいた。平成29年の就学前児童数(0歳から5歳)の推計人口であるが、平成29年度は実績値で置き換えている。全市が9,400名に対して、秋津地域は213名、香澄地域は216名となっている。これが、平成29年にどういった推計をしていたかを説明すると、全市では9,173名、秋津については244名、香澄については252名という数値である。推計が、若干多くなっているということについ

ては、谷津・奏の杜、東習志野地域における大型集合住宅の開発に伴って、0歳から5歳の就学前児童数が増えているという実態があるのではないかと推計される。しかし、秋津・香澄地域については推計よりも、若干下回っている。これは、平成25年度に行った簡易人口推計による報告ではあるが、平成53年までを見ても、大きく増えるということはないのが実態である。

続いて、秋津・香澄地域における平成29年3月末における状況であるが、それぞれ丁目別に0歳から5歳の状況を言えば、秋津地域の213名の内訳は資料のとおり、香澄地域の216名についても同じである。

第七中学校区における市立幼稚園の入園状況であるが、これまでの説明のとおり秋津及び香澄幼稚園の園児数は就学前児童数が非常に少ないということもあり、平成26年度・27年度の秋津幼稚園の入園者数は10名となっている。香澄幼稚園の入園者数は平成28年度が7名、平成29年度は5名となっており、在籍者数は定員を大きく下回っている。繰り返しになるが、集団教育における幼児教育の目的達成、いわゆる幼児教育の充実、教育効果を維持するための教員の人材育成、施設の維持管理や人件費など運営に要する経費の面などからも課題が生じているという実態がある。第七中学校区における地域では大きな開発等の予定がないことから、就学前児童数は大きく増加する見込みはなく、幼稚園へ入園する数の大幅な増加は見込むことが出来ないと捉えている。

次に、香澄幼稚園、秋津幼稚園、あるいは秋津幼稚園近隣にある袖ヶ浦こども園の位置図についてまとめたものである。なぜ香澄幼稚園にこども園を整備するのかについては、秋津幼稚園と香澄幼稚園は園庭などの施設規模や建物がほぼ同じ造りとなった施設である。開園はともに昭和50年代となっており、施設の老朽化度合も同じような状況である。どちらも、小学校との併設園である。このような状況の中で、どちらの幼稚園を活用するかについて最も優先したのは、施設の配置バランスの関係である。具体的には、秋津幼稚園にこども園を整備した場合、近隣にある袖ヶ浦こども園に非常に近くなる、すなわち、この近距離で2つのこども園を整備することは、行政サービスの提供の観点から望ましい状況とは言えないということで、施設の配置バランスを考慮した。また、こども園では主に就学前の子どもとその保護者の子育て支援のための施設として「こどもセンター」をいずれ開設していく。仮に、秋津幼稚園を活用してこども園整備となる場合、香澄地域にお住まいの方々にとって、袖ヶ浦こども園と新たに開設する場所のいずれも、利用するにはどちらも遠くなってしまうということがある。したがって、総合的に勘案した結果、どちらの幼稚園を活用するかということについて最も優先したのは施設の配置バランスの関係で、香澄幼稚園を選択した。

第七中学校区における市立こども園の整備方針については、幼稚園の再編については「こども園の整備に伴い幼稚園を統合廃止し、定員の適正を図る」ということ、「こども園の整備は既存施設の有効活用を図る」とこととしていることから、市立こども園の配置バランスなどから香澄幼稚園を改修し、こども園整備を行うことである。施設規模については、3歳児から5歳児の受け入れ施設として、短時間児、いわゆる幼稚園教育対象児については各20名、長時間児、いわゆる保育所保育対象児については各10名ということで、3歳児から5歳児まで合わせて90名のこども園として開設したいと考えている。

保護者や地域住民からの要望事項とその対応であるが、これまでも地域の方、あるいは保護者の方を対象に説明会を開催した。その中で、大きく3点の要望をいただいた。1つはこども園整備に伴う通園方法である。保護者の方にもはっきりと述べているが、スクールバス等の配車をすることは市では考えていない。通園方法については徒歩を原則とするが、通園距離に応じて自転車通園に加え、自家用車及び公共交通機関の利用を可能にしようとしている。また、保護者からも強く要望のあった香澄地域と秋津地域を結ぶバス路線について、バス運営会社等との合意があつて

実現するものであることから現時点で確約できることではないが、幕張本郷から香澄・秋津地域を抜けて新習志野駅に入る、また、その逆のルートについては、その路線延長の可能性についてバス運営会社等と協議を進めている。いずれにしても、保護者と子どもと一緒に登園する際の安全確保については配慮をしなければならない最優先事項だと考えている。次に、平成30年度に秋津幼稚園に入園する4歳児についてである。こども園については平成31年度の4月から開設予定であり、平成30年度に秋津幼稚園に入ってくる4歳児については、引き続き、卒園するまで秋津幼稚園園舎で学ぶということである。このことについては、秋津幼稚園と香澄幼稚園は平成31年3月31日をもって閉園する。香澄幼稚園跡に平成31年4月に開園するこども園に移行するということになる。しかし、秋津幼稚園は計画を前倒してこども園として再編することから、経過措置として集団教育に支障がある場合を除いて平成30年4月入園の4歳児については、原則として卒園するまでこども園の分室として旧秋津幼稚園園舎で教育を行いたいと考えている。また、これに加えて新たに整備するこども園の名称であるが、現時点では便宜上、(仮称)香澄こども園として地域の方、あるいは保護者の方に対して説明を行っている。これはあくまでも仮称である。今後のこども園の名称について、地域の方々と相談しながら決めていきたいと考えている。

今後のスケジュールであるが、平成29年9月議会にて、こども園開設に伴う既存施設改修工事のための設計業務に要する経費として、補正予算を計上していきたい。平成29年11月から今年度末にかけて設計業務を実施し、平成30年7月から平成31年3月まで、主に夏休み期間中に既存施設、香澄幼稚園の改修工事に取り組んでいきたいと考えている。平成31年3月31日に秋津幼稚園と香澄幼稚園は閉園し、平成31年4月1日に幼稚園を再編して、香澄幼稚園跡に新たなこども園を開園したいと考えている。このようなことを地域の方々に説明し、地域から要望のあったこと、特に交通路線のことについて、これは保護者の方から強く要望があったが、このことについて地域の方々にお答えしたというところである、と概要を説明

古本委員

こども園の入園児数について、見込みでいいので教えて欲しい。こども園ができた時の定数が出ている。現在の園児数に比べても明らかに多くなっているが、こども園になった場合、保育園と被ってくると思う。その場合、どのくらいの入園者数を見込んでいるのか、と質問

小野寺学校教育部主幹

先ほど、簡易推計値を紹介したが、平成31年度の秋津・香澄地域の子どもを合わせた数を、これまで秋津幼稚園・香澄幼稚園を選択した割合で掛け込むと、20名程度は確保ができるのではないかと見込んでいる。したがって、幼稚園再編に伴う子どもについては20名の枠の中で預かりが出来ると考えている、と回答

古本委員

幼稚園児を受け入れられるのは可能として、現在保育園の入所希望者は溢れてしまうということはないのか。それとも、全員希望どおり受け入れることが可能と考えているのか、と質問

小野寺学校教育部主幹

待機児童については、平成29年8月の状況で言うと、全市的には200名を超える大きな待機児童数は発生している。ただ、秋津・香澄地域については数としては1ヶ台となっている。近隣にはかすみ保育園、秋津保育所があるため、そこと連携する中では保育需要についても特に支障はなく受け入れが出来るのではないかと捉えている、と回答

古本委員

基本的には希望に全部応えることが出来ると見込んでいるのか、と質問

小野寺学校教育部主幹

秋津地域において、0歳児から2歳児の子どもについて、待機児童が発生していないというわけではない。今回の計画については、あくまでも現状の教育環境を改善するということで3歳児からのこども園として整備しようとするものである。習志野市子ども・子育て支援事業計画の中で、平成30年度あるいは平成31年度には待機児童が解消できるのではないかと見込んでいるところである。今後、需要と供給の見込みをしっかりと精査する中で保育需要についても見直し、今後0歳児からの受け入れ施設にするかどうかについて定めていきたいと思う。特に、0歳児から2歳児の受け入れについては、小規模保育事業所の誘致も可能であるため、施設整備全般の抱き合わせの中で待機児童の解消について、市として全力で取り組みたいと考えている、と回答

原田委員

来年、香澄地域の0歳から5歳の人口が216名から243名に30名くらい増えているようだが、この状況についてどう見ているのか、と質問

小野寺学校教育部主幹

この数については、平成25年度に行った簡易推計値の状況である。平成29年度について、実績値として秋津地域が213名、また香澄地域が216名というところであるが、推計上の数字で言うところでも平成30年度は240名程度ということであるので、平成30年度の実数はこの数字をおそらく下回るだろうと捉えている、と回答

原田委員

今、香澄幼稚園の年少が5名である。この前訪問した際は、2名欠席しており3名であった。こういう状況であるが、平成30年度も香澄幼稚園の年少については、やはり少人数になるのか、と質問

小野寺学校教育部主幹

秋津幼稚園については、若干ではあるが谷津地域の方が選択している。他の地域からきている園児もいるが、子どもの発生状況から見れば香澄・秋津地域はどちらも大きく子どもの数は増えることはないと考えている、と回答

原田委員

やはり、幼稚園も教育であると思うので、子どもたちがかわいそうだなという気がする。平成31年度4月から開園ということなので、教育委員会も教育を実施する段階で十分配慮してほしい、と要望

小野寺学校教育部主幹

幼稚園というものについては基本、7つの中学校区に位置するこども園に集約したいということで、計画を進めている。ただ、幼稚園需要があるという部分についてはこども園という形の中で再編し、幼稚園教育対象児についての子どもの預かりをしたいと考えている。今回の計画について

は、今の園児数の実態を見た時に、また、委員から意見をいただいた時に、私たち職員が香澄幼稚園の保育の現状を見た時に、これについては早急に教育環境を改善しなくてはならないという視点から、こども園として再編したいということである、と回答

梓澤委員長

第6回定例会、第7回定例会と協議している重要な案件であるが、貞廣委員の意見はどうか、と発言

貞廣委員

幼稚園は事例として経験はないが、小学校の再配置については全国で様々な事例を調査してきたので、大変難しい問題であるということも研究者としても体感的にもある程度分かっているつもりではある。その一方で、次期の学習指導要領に関わった立場からすると、今後子どもたちの学びにおいて、多様な意見の中で多様な意見をすり合わせ、新しい価値観を生み出していくかという集団性の重要性が高まっていることを考えると、致し方ない部分もあるというように感じる。ただ、様々な事例を見るにつれて、合理的に考えるとこの手立てになるかもしれないが、大事なものは合理性から考えられた解をいかに地域の方々や保護者の方々との対話の中で、みんなの納得解に練り上げていくかというプロセスであると思う。むしろそうしたプロセスが、どういう解かということに加えて非常に大事、むしろそこが大事なのだと思う。その場合、地域によっては物理的に合理的な解ではないような納得解を手立てとして講ずる事例もある。それも、地域にとっては正解なのである。習志野市はきちんとした方針があるが、納得解を得るにあたっていくつかプロセスに関する質問がある。1点目は、今度、第3期の計画になってくるが、計画の前に子どもの幼児教育をどうしていくかなどの構想があったと思うが、その段階から計画の段階まで、地域の方や現場の先生方がどのくらい関わり意見を述べる機会があったのか。2点目は、バスの問題なども含め、地域の方に今後の教育委員会での対応をしていくと説明したと言ったが、それについて地域の方々や保護者の方々からどのような反応・回答をもらったか。3点目は、このような問題は全ての方が簡単に納得できることではなく、相当時間がかかることであると思う。相当汗をかくべきところではあると思うが、今後どのような手立てで事務局と地域で納得解の練り上げを進めていくという目論見を持っているのか。最後に4点目は、今の案としては再配置として子育ての空白地点、こども園の空白地点を生まないということで、香澄幼稚園にこども園の配置をするということであるが、秋津幼稚園の施設と土地の跡利用は今後どうなるのか聞きたい、と質問

小野寺学校教育部主幹

まず1点目であるが、再編の実行計画としての「習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所再編計画」の実行計画に基づいて、現在、幼稚園・保育所の再編を行っているが、この第2期の計画を作る際、秋津幼稚園と香澄幼稚園を再編するといったところは地域の方々に説明した経過がある。その中で7つの中学校区におけるこども園整備について、今後どのように整備を進めるのかということについては、まだ未整備の中学校区もあるわけだが、施設の老朽化の対策を最優先に考えた時、新栄幼稚園と大久保保育所をまずは再編し、仮称ではあるが大久保こども園を整備することとした。したがって香澄・秋津幼稚園を再編し、香澄幼稚園の跡施設を使ったこども園整備は平成32年度以降の第3期計画の中で行う、ということについて地域の方々に説明した経過がある。次に、地域の方々への納得解をどのようにいただくかについては、幼稚園教育要領では1学級35名という上限設定があるが、下限値は定めがない。平成26年度に秋津は10名であったが平成29年度では香澄が非常に少ない人数となっている。このことについて、「どのタイミングで

再編に踏み出すのか」ということは、地域の方も保護者の方も混乱したのが実態であると思う。その中で、平成32年度以降の第3期計画をつくる際には、習志野市の集団教育・幼稚園教育については「何名の数が維持できなかった場合については再編する」といったような指標は計画の中にしっかりと位置づける必要があると考えている。平成28年度においては、幼稚園の園長会からは10名を基準とし、10名を下回った場合はなかなか幼児教育が成り立たないと意見をいただいた経過もある。このことをしっかりと計画の中で位置づけをし、混乱の無いように対応していくべきであると考えている。これは今回の説明会をした反省点であると思っている。次に、秋津幼稚園の跡利用についてであるが、これは併設園となった施設であるため公共施設再生計画の考え方から、跡施設については次期の公共施設再生への財源手当てということになる、基本的な考えに当てはめることは難しいのでは。ただ、小学校に併設された幼稚園であり、秋津幼稚園という環境について、地域の方々の理解を得られれば、地域の方や幼稚園を利用していた保護者の方などと相談しながら、跡利用について考えていきたいと考えている。7月11日に行った地域の説明会の中では、このような話が出来なかったということが実情である。ただ、こども園整備という部分についてここで承認していただけるのであれば、次の段階としては幼稚園跡利用について地域の方々と話をさせてほしいと思っている、と回答

竹田学校教育部参事

今の答弁に補足させていただく。まず、構想・計画という段階の話であるが、こども園構想について本市は平成15年6月にこども園構想を策定している。昭和45年に文教住宅都市憲章を定め、昭和46年にはヘッドスタートプランとして1小学校区に1幼稚園、全国に先駆けて公教育を実施してきた。しかし、昨今の少子化の影響、女性の社会進出などの中でこども園を推進していく方向に転換した。これが、大きくいうと平成15年だろうと思っている。このこども園については委員の方々が承知しているとおおり、保育需要の受け入れを拡大するという部分もあるし、短時間児・長時間児の柔軟な受け入れもでき、さらには預かるこどもだけではなく地域の子どもや在宅で子育てをされている保護者の憩いの場・相談の場という機能もある。そのような意味で、公としてこどもセンターを含めたこども園をきちんと地域ごとに配置するという計画を立てた。平成15年のこども園構想を受けて、「習志野市こども園整備と既存市立幼稚園・保育所再編計画」を立てているが、この第1期計画は平成21年8月である。平成21年の段階で、既存の市立幼稚園・保育所を再編しつつ7つの地域にこども園を整備するという方針を打ち出している。第1期計画は平成21年8月、さらに第2期計画は平成25年12月策定ということで、今はこの第2期計画の中にあるところである。この計画策定にあたって、今の委員の指摘のとおり、各地域での説明会、さらにはパブリックコメントなど広く市民の意見をいただいてきた経過がある。加えて、第2期計画の策定の段階では残る地域として第一中学区、第二中学区、第五中学校区、そして今回の第七中学校区といった未整備の地域のこども園構想について、説明してきた際に、第七中学校区には香澄地域にこども園をつくりたいと説明してきた。今回こうした中で、第七中学校区については本来ならば第3期計画として平成32年度からの位置づけをもととは予定していたが、園児数の減少が非常に顕著になってきた中で、「これ以上放置をしておけない」と考え、今回計画を前倒してこども園化の検討を進めた。地域への説明については、まず、5月23日に秋津幼稚園の保護者を対象に説明し、6月、7月と地域説明をした。7月11日に秋津地域から様々な意見をもらい、その後、8月に入っても地域の方々、連合町会の方々を中心に意見交換をした。その意見が資料のとおり、通園方法の問題、さらには平成30年度に入園する4歳児の問題、これが引き続き平成31年度も秋津幼稚園園舎で学び、卒園できないのかという要望、そしてもう1つは秋津・香澄という名称の部分も若干、地域の方々から意見をいただいた。その部分については私どもも、市長、副市長とも相談の上、地域

の意見を前向きに受け止めたいと回答した。この回答に対する反応であるが、連合町会の方々も100%納得することは難しいが、行政として秋津地域のことを考えてこのような提案をしている部分については真摯に受け止めるといった回答をいただいた。再度説明会という話しもあったが、そこは、連合町会を含め地域の方と調整しているところもある。今後の跡地活用については、先ほど説明したとおり、秋津幼稚園の跡地は非常に良い環境であり、私どももそれを認識しているため、ここについてはなにか子どもたちのために有効活用できるようなものを、まだ時間があるので地域の皆様とじっくり話をしていきたいと思っている、と回答

貞廣委員

私自身もそうであるが、決して合理的な人間・合理性ばかりの人間ではなく、感情の部分もあるので、ぜひそのパイプを切らずに説明会などで丁寧に対話をしてほしい。先ほど、園児数の1学級の下限の話があったが、クラスサイズについてはおびただしい数の研究が世界にあるが、「ワンベストサイズはない」、つまり「このサイズが良い」という結論はない。もう少し平たく言うと、力のある先生は、子どもが2人でも教育が出来る。先生方は初任の先生からベテランの先生までいるので、多くの先生が大きな支障なく教育が出来るには、ある程度の数が必要だということだと思う。10名だったら駄目であるとか8名だったら駄目である、12名だったら大丈夫といったラインが引けるものではないと思う。ぜひ、現場の先生方の経験値はすごく重いものであると思うので、先生方の意見を聞きながらしっかりと対応してほしい、と要望

小野寺学校教育部主幹

保育の内容については、現実の実態を踏まえながら幼稚園の園長が色々と議論してきた経過がある。こども園については平成31年度開園ということであるため、これから施設の整備をしていく過程の中で、またこれからどのような形の中で子どもを預かっていくのかということについても、平成30年度にはしっかりと連携をしながら進めていきたいと考えている、と回答

梓澤委員長

保護者や地域住民からの要望事項とその対応に関して3点、質問がある。1点目は、地元からの要望はこの2件だけなのか。2点目は、この2件の要望はどのような立場の方から出たのか。3点目は、仮に平成30年4月入園の4歳児が少なくとも実行するということなのか。こども園分室という位置づけをするとはいっても、集団教育は日常的に確保できるのか心配であるがいかかが、と質問

小野寺学校教育部主幹

まず、地域の方々からの要望、あるいは保護者の方々からの要望であるが、前回の定例会の中でも説明したとおりである。秋津幼稚園の保護者の方々からは、「秋津幼稚園は園庭が広く教育環境が良いため残してほしい」また、「通園距離が長くなり保護者の負担となる」、「移転後の秋津幼稚園について利用はどのように考えているのか」ということについてで、紹介したとおりである。香澄幼稚園の保護者の方々からは、「こども園そのもののメリットはどこにあるのか」ということでこども園についての質問をいただいた。秋津幼稚園をこども園化した場合については、秋津・香澄両地区から「袖ヶ浦6丁目や香澄地区にとって近隣に通園できる幼児のための教育施設が無くなってしまおう」といった意見もいただいた。また、こども園を整備する場合の工事内容についても質問をいただいた。また、秋津まちづくり会議では、「早急な話である」、「秋津幼稚園の保護者に話しても納得してもらえないのではないか」、秋津幼稚園の跡地利用については、「地域コミュニティー

活動で使いたいと考えているため、跡地利用については地域の要望も聞いてほしい」という意見をいただいた。また、7月11日の説明会の中では市の説明については、「なかなか納得できない」、「やはりこの案件については白紙に戻してほしい」といった意見もいただいた。香澄のまちづくり会議からは、「保育需要が多いのであれば幼稚園そのものを廃止したらどうか」という意見もいただいた。7月11日以降の対応であるが、秋津の町会の長を中心に相談をし、進めてきたということもあるが、連合町会は8つの町会で構成されている。このような方々がコミュニティーの運営を任されているという部分もあるので、地域として通園方法の件や平成30年度に入園する4歳児の子どものことなどの意見をいただいた、と回答

梓澤委員長

4月入園の4歳児の園児は、少なくともこども園分室として位置づけるということでよろしいか、と質問

小野寺学校教育部主幹

幼稚園としては平成30年度末をもって廃止するが、こども園分室として運営をし、秋津幼稚園跡地で卒園させていこうというものである、と回答

梓澤委員長

やはり、子どもたちの教育環境をより良いものにするという観点を忘れずに、統廃合ありきで進めないよう、丁寧な対応を要望する、と要望

梓澤委員長が他に質疑なしと認め、協議第1号は終了した。

議案第26号 平成30年度習志野市立幼稚園園児募集要項について (学校教育課)

鵜沢学校教育部主幹

議案第26号については、ただいまの協議第1号を受けて、平成30年度習志野市立幼稚園園児募集要項について、習志野市立幼稚園管理規則に基づき定めようとする事について、説明するものである。この中で、募集要項については日程等の変更以外、例年と同じである。続いて、募集人員を表した別表である。募集人員の基本的な考え方としては、2年保育の4歳児募集人員は総定員の半分にあたる4歳児分の人員を募集するものである。また、1年保育の5歳児募集人員については、総定員の半分にあたる5歳児分の人員から現4歳児の人数を差し引いた人員を募集するというものである。

今述べた考え方と異なるものとして、新栄幼稚園、秋津幼稚園、香澄幼稚園の3幼稚園があるため説明する。はじめに、新栄幼稚園である。新栄幼稚園は、平成31年3月31日をもって閉園し、平成31年4月より(仮称)大久保こども園に移行する予定である。したがって、2年保育の4歳児募集人員は平成31年度には進級して仮称大久保こども園の5歳児となるため、その定員である30名を募集している。次に秋津幼稚園・香澄幼稚園については、平成31年3月31日をもって閉園し、香澄幼稚園跡に平成31年4月から開園するこども園に移行する予定である。なお、秋津幼稚園は計画を前倒してこども園に再編することから、経過措置として集団教育に支障がある場合を除き、平成30年4月入園の4歳児については原則として、卒園するまでこども園分室として旧秋津幼稚園園舎で教育を行うこととしている。秋津幼稚園については、補足説明をする。秋津幼

稚園における平成29年度から平成31年度までの子どもの動きを図式化したものである。平成29年度は4歳児・5歳児、それぞれ1学級ずつ計2学級ある。次に、平成30年度には4歳児と5歳児がそれぞれ進級・卒園するとともに新4歳児が入園してくるため、平成29年度と同様に2学級はある。ここで、平成30年度で秋津幼稚園が閉園ということになるが、平成31年度については新4歳児は募集せず、新5歳児のみの1学級となり、年度末に卒園を迎えるということになる。さらに具体的に示したものが資料の下部であるため、後ほど見てほしい、と概要を説明

貞廣委員

最後に説明していただいた、「(仮称)香澄こども園への移行措置に伴う香澄幼稚園・秋津幼稚園」についてであるが、ぜひこの名称を変えていただきたい。(仮称)第四こども園などとし、特定の名前ではないようにした方が良いと思う、と発言

鵜沢学校教育部主幹

そのあたりについては十分に配慮し、名称について考えていきたい、と回答

梓澤委員長が質疑なしと認め、採決の結果、議案第26号は全員賛成で原案どおり可決された。

協議第2号 次回教育委員会定例会の期日について協議し、平成29年9月27日(水)午後3時30分に決定された。

<報告事項(1)については非公開。>

ただし、平成29年9月1日をもって市長から議会へ提案されたため、会議録を公開する>

報告事項(1) 平成29年度教育費予算案(9月補正)について

(教育総務課)

三角教育総務課長

報告事項(1) 平成29年度教育費予算案(9月補正)について説明する。報告事項(1)は、前回の平成29年教育委員会第7回定例会において議決され、市長に申し入れを行なった補正予算についての報告である。

平成29年度 教育費予算案(9月補正)は、市長事務部局と協議を重ねた結果、(1)歳出概要及び財源内訳については申し入れを行った事業費1千116万2千円に対し、確定事業費は同額の1千116万2千円となった。申し入れた事業費は認められたということである。この補正予算案は、9月1日から開会予定の平成29年習志野市議会第3回定例会に提案することで協議が整ったので報告する、と概要を説明

梓澤委員長が他に質疑なしと認め、報告事項(1)は了承された。

梓澤委員長が
平成29年習志野市教育委員会第8回定例会の閉会を宣言